令和３年度　矢作川水系総合土砂管理検討委員会　議事概要

日時：令和４年３月22日（火）　　13時00分～15時10分
場所：WEB会議

【議　事】
１．開会挨拶
２．配布資料確認
３．委員紹介
４．委員長挨拶
５．議事
　1）これまでの検討経緯
　2）前回委員会以降の取り組み報告
　　(1) 土砂供給実験の実施状況
　　(2) 関係機関との協議状況
　3）技術的課題の解決に向けた取り組み
　　(1) 土砂管理シナリオ(案)について
　　(2) 課題解決に向けた取り組み(案)
６．閉会

【議事要旨】
●1）これまでの検討経緯
　これまでの検討経緯について、事務局から説明。

●2）前回委員会以降の取り組み報告
　　(1) 土砂供給実験の実施状況
　　(2) 関係機関との協議状況
　前回委員会以降の取り組みについて、事務局から説明。

●3）技術的課題の解決に向けた取り組み
　(1) 土砂管理シナリオ(案)について
　土砂管理シナリオ(案)について、事務局から説明。

　各委員からいただいた意見は以下のとおり。
・土砂流入量は、恵南豪雨後は多く、近年は少ない。恵南豪雨のように非常に大きな出水の際には、山からの土砂流出が大きいだけでなく、山間部での流下過程で河道へ堆積した

土砂が次の出水で流出したことも考えられる。

・現在の土砂収支で設定している矢作ダム流入量 30.8 万 m^3 は過大と考える。

・30 万 m^3 の流入土砂量を常に想定するのとは別に、流入土砂量に変動があることを想定しておくことが重要である。

・Q-Qs 関係式を S50～S60、S61～H11、H13～H16、それ以降でそれぞれ整理し、できるだけ現実に合う Q-Qs 関係を検討する必要がある。

・上流から流入する土砂量を見直して、土砂バイパスの規模を下流の実態に合わせていく必要がある。

・矢作ダムの土砂をある程度下流に流し、スルーシングで海までできる限り届ける考えで取り組むべきである。

・下流は堆砂量の許容範囲が一つのポイントであり、堆積土砂の有効活用も加味して考える必要がある。河口部への土砂供給、堆積土砂の有効活用などの出口戦略を考える必要がある。

・年毎の土砂変動に伴う土砂量（流砂量、堆砂量、粒径）に対処する仕組みについて検討する必要がある。

・流入土砂量に応じて複数の土砂管理シナリオを考えておくことも有効

(2) 課題解決に向けた取り組み(案)

課題解決に向けた取り組み(案)について、事務局から説明。

各委員からいただいた意見は以下のとおり。

・モニタリングをするうえで最新の知見・研究を調べて、評価の視点・項目立てを検討すべきである。

・置土量を増やすという方向性はよいが、その結果をさらなる置土量の追加にどのようにフィードバックさせるかの議論を充実させる必要がある。

・より科学的にどのようなモニタリングを行うのか、どのように閾値を設定するのかということを議論していく必要がある。

・矢作川以外も含めて調査し環境影響の閾値についての検討を行う必要がある。

・置土実験の量を増やせない場合、模型実験を実施することも考えられる。

以上